

# InstallShield 2022 Express Edition リリースノート

オリジナル リリース 2022 年 7 月、R2 を含むアップデート リリース (2022 年 12 月)

はじめに.....	2
<b>R2 での変更点.....</b>	<b>2</b>
InstallShield 2022 R2 Express Edition における Visual Studio 2022 の統合.....	2
<b>R1 の新しい機能.....</b>	<b>2</b>
Visual Studio 2022 の統合.....	2
<b>強化機能.....</b>	<b>3</b>
<b>重要な情報.....</b>	<b>3</b>
InstallShield の評価.....	3
InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する.....	3
InstallShield の複数エディションをインストールする.....	4
InstallShield の複数バージョンをインストールする.....	4
[アップデート通知] ビューの削除.....	4
<b>プロジェクトのアップグレードに関するアラート.....</b>	<b>5</b>
InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報.....	5
ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更.....	5
文字列のローカライズに関する考慮.....	6
<b>バグ修正.....</b>	<b>6</b>
InstallShield 2022 R2 Express Edition.....	6
InstallShield 2022 R1 Express Edition.....	7
<b>システム要件.....</b>	<b>7</b>
InstallShield を実行するシステムの要件.....	7
ターゲット システムの要件.....	9
<b>既知の問題.....</b>	<b>9</b>
<b>法的情報.....</b>	<b>9</b>

# はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2022 Express Edition では、最新テクノロジーを手軽に使用できるようにする新しい機能、強化機能、およびバグ修正も提供されています。

## R2 での変更点

InstallShield 2022 R2 Express には、以下の変更が含まれています:

- [InstallShield 2022 R2 Express Edition における Visual Studio 2022 の統合](#)

## InstallShield 2022 R2 Express Edition における Visual Studio 2022 の統合

InstallShield 2022 R2 Express では Visual Studio 2022 でプロジェクト作成、編集、アップグレードおよびビルドを行うことができます。

Visual Studio 2022 と InstallShield 2022 R2 Express Edition との統合についての概要は、つぎのとおりです:

- Visual Studio 2022 内で新しい InstallShield Express Edition プロジェクトを作成することができます。
- InstallShield Express Edition プロジェクトを Visual Studio 2022 内で編集することができます。
- プロジェクトを最新版の InstallShield Express Edition にアップグレードすることができます。
- Visual Studio 2022 IDE および x64 MSBuild からのプロジェクトをビルドすることができます。

## R1 の新しい機能

InstallShield 2022 R1 Express Edition には、以下のような新しい機能が搭載されています:

- [Visual Studio 2022 の統合](#)

## Visual Studio 2022 の統合

InstallShield 2022 R1 Express Edition には、Visual Studio 2022 の統合サポートが含まれています。この統合は段階的な提供が予定されています。InstallShield 2022 R1 Express Edition では Visual Studio 2022 でプロジェクトを開き、ビルドおよびアップグレードを行うことができます。

Visual Studio 2022 と InstallShield 2022 R1 Express Edition との統合についての概要は、つぎのとおりです:

- 既存するプロジェクトを Visual Studio 2022 で開くことができます。
- プロジェクトを最新版の InstallShield Express Edition にアップグレードすることができます。

- Visual Studio 2022 IDE および x64 MSBuild からのプロジェクトをビルドすることができます。



**メモ**・Visual Studio 2022 は以前のリリースの 32 ビットとは異なり、64 ビット アプリケーションとしてリリースされています。このため、統合が段階的に提供されています。

## 強化機能

InstallShield 2022 R1 Express Edition の強化機能:

- InstallShield 2022 R1 Express Edition で解決された問題については、「[InstallShield 2022 R1 Express Edition](#)」を参照してください。

## 重要な情報

InstallShield 2022 Express Edition リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- [InstallShield の評価](#)
- [InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する](#)
- [InstallShield の複数エディションをインストールする](#)
- [InstallShield の複数バージョンをインストールする](#)
- [\[アップデート通知\] ビューの削除](#)

## InstallShield の評価

InstallShield のライセンスを購入していなくても、InstallShield をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「[InstallShield 評価版の機能制限について](#)」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェックアウトされたときに解除されます。

## InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、「[InstallShield のダウンロードおよびライセンスの使用](#)」に記載されている通り、Reverera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)

- ・ FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンスサーバーを設定する必要がある場合)
- ・ スキン カスタマイズ キット
- ・ InstallScript オブジェクトのテンプレート
- ・ InstallShield サービス パック (使用可能な場合)

## InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2022 (InstallShield Premier、InstallShield、または Express) は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2022 DIM Editor を、InstallShield 2022 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

## InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2022 Express Edition は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2022 Express Edition Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの「*Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする*」トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

## [アップデート通知] ビューの削除

InstallShield 2021 R1 より、FlexNet Connect を統合して InstallShield を使ってアップデートを確認できる、アップデート通知機能のサポートが終了しました。この統合で使用されたマージモジュールは、今回より InstallShield にバンドルされていません。これまでにこの統合機能をご利用いただいたお客様には、以前の InstallShield インストールからマージ モジュールをコピーして、引き続き同じ機能をご利用いただくことができます。詳細については、[ここをクリックしてください](#)。

# プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2022 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2022 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2022 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- ・ [InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報](#)
- ・ [ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更](#)
- ・ [文字列のローカライズに関する考慮](#)

## InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777 (.ism プロジェクトの場合) または .2016 (.issuite プロジェクトの場合) というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2022 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意ください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2022 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2022 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

## ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムに必要な Windows の最小バージョンです。スイート (アドバンスド UI、およびスイート/アドバンスド UI プロジェクト タイプ) の場合、Windows Vista および Windows Server 2008 がターゲット システム上で必要とされる Windows の最小バージョンです。

# 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	メッセージ	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

## バグ修正

このセクションには、InstallShield Express Edition の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- [InstallShield 2022 R2 Express Edition](#)
- [InstallShield 2022 R1 Express Edition](#)

## InstallShield 2022 R2 Express Edition

InstallShield 2022 R2 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
I0J-2251298	以前にインストールされたバージョンからの一時ファイルが一時フォルダーに残された為に、アップグレードされたバージョンのアンインストール中に別のバージョンが既にインストールされていることを通知するメッセージが表示される問題がありました。この問題は解決されました。
I0K-751637	セキュリティスキャン レポートに、ARPPRODUCTICON.exe に対する 2 つのセキュリティ機能 (DEP および ASLR) についての警告が含まれていました。この問題は解決されました。

# InstallShield 2022 R1 Express Edition

InstallShield 2022 R1 Express Edition では、次の問題が解決されています。

問題番号	問題の概要
IOJ-2260374	クイックパッチ プロジェクトがビルドされた時、製品名、バージョン、および著作権情報が Update.exe のプロパティ詳細に正しく表示されませんでした。この問題は解決されました。
IOJ-2255857	InstallShield Express エディションで、ZLib v1.2.11 の脆弱性がレポートされました。この問題を解決するため、ZLib バージョンが v1.2.12 にアップグレードされました。
IOJ-2245065	コマンドライン ビルドからプロジェクトをビルドした際、ランタイム エラー 1324 が発生してインストールが中断しました。この問題は解決されました。

## システム要件

このセクションでは、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件、ならびに InstallShield を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- ・ [InstallShield を実行するシステムの要件](#)
- ・ [ターゲット システムの要件](#)

## InstallShield を実行するシステムの要件

InstallShield は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	256 MB の RAM (512 MB 推奨)
ハードディスク	750 MB 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

項目	説明
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2008</li> <li>Windows 7</li> <li>Windows Server 2008 R2</li> <li>Windows 8</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows 8.1</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows 10</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows 11</li> <li>Windows Server 2022</li> </ul>
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	<p>Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier または InstallShield (以前は InstallShield Professional) に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Visual Studio 2008</li> <li>Visual Studio 2010</li> <li>Visual Studio 2012</li> <li>Visual Studio 2013</li> <li>Visual Studio 2015</li> <li>Visual Studio 2017</li> <li>Visual Studio 2019</li> <li>Visual Studio 2022</li> </ul> <p>Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディション、InstallShield Premier または InstallShield に統合することができます:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Professional</li> <li>Premium</li> <li>Ultimate</li> <li>Enterprise</li> </ul>



# ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

## 既知の問題

InstallShield 2022 R2 Express Edition の既知の問題はありません。

## 法的情報

### 著作権情報

Copyright © 2022 Flexera Software

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジーおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

## 知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、<https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html> を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

## (米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。